

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

傷病鳥獣救護&野外施設自然情報 合併号！

バックナンバーは
↓ HPから見られます



自然環境保全センターでは、県民の方により持ち込まれた傷病鳥獣の治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を行っています。また、野外施設では、季節ごとにさまざまな生き物同士のつながりを見ることができます。

「かわせみ通信」では、野生動物の救護原因やリハビリ状況などの情報や、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

タヌキが残してくれた物

令和3年12月、厚木市内で交通事故にあったタヌキを受け入れました (No.210242)。受け入れ後、そのタヌキはある落とし物をしました。「フン」です。よく観察してみるとフンの中にはなにやら茶色い粒が混じっています。さて、動物のフンからどんなことが見えてくるのでしょうか？

このフンを丁寧にほぐして取り出した茶色い粒を調べてみると、ケンポナシの種子でした。このタヌキの行動していた地域にケンポナシの木があって、事故にあうより前に、落ちていた実（と果軸）を食べたのでしょう。ケンポナシは野山の林内に生える落葉高木なので、このタヌキは比較的自然的豊かな環境に暮らしていたと考えられます。

残念ながら、このタヌキは後に亡くなってしまいましたが、残してくれた物から、どんなところで暮らしていたのか、何を食べていたのか、生活をほんの少し垣間見ることができました。



タヌキのフン

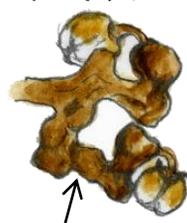


タヌキのフンに入っていたもの

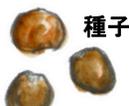


ケンポナシの木(野外施設にて撮影)

ケンポナシ



果軸



種子

果軸が太って、甘み(梨の風味)がある。折れ曲がっているのので、果軸を食べれば種子も口に入る。

イラスト：小沢正幸さん

フンから分かること

動物のフンには食べた物のうち消化できない部分が混ざっているため、それを調べることによって動物の生態の一部が分かります。タヌキのフンを丁寧に洗うと、植物の種子や実の皮のほか、昆虫の体の一部やミミズの表皮などが出てくる場合があります。

タヌキは木登りがあまり得意ではなく、基本的には地面に落ちているものを拾い食いする習性なので、昆虫やミミズ、木から落ちた果実などに比較的交流しやすい、よく食べているようです。また、市街地で暮らすタヌキのフンからは、人間のゴミを漁ったときに一緒に口に入ってしまったと思われるプラスチックやアルミホイル、輪ゴムなどの人工物が出てきたりします。

風化したイタチのフン。昆虫のかたい皮(キチン質)は消化されにくいので、よく残ります。



タヌキのフンから出てきた輪ゴム。これはフンとして出てきたからよかったものの、輪ゴムなどのゴミがそのまま腸内にとどまり、深刻なダメージを与える可能性があります。

どうぞ食べてください by植物

前ページのケンポナシを食べたタヌキのように、季節によってはフンの中身のほとんどが種子ということもあります。植物の実には野生の生き物にとって重要な食料ですが、一方で植物にとっても、どうやら「なんとかして食べられたい」ようです。その目的は種子を運んでもらうため。

大地に根を張り動くことができない植物は、育つのに必要な太陽の光や水、養分などを競合しないように子孫にはより遠くで発芽してもらいたいのです。また、さまざまな環境の場所に広まった方がその植物が生き残る可能性が高くなります。遠くで発芽してもらうには「何か」に運んでもらわないといけません。植物は運ばれる対象に合わせた形に進化して、確実に運ばれるようにしています。

動物に食べてもらいたい植物の策略

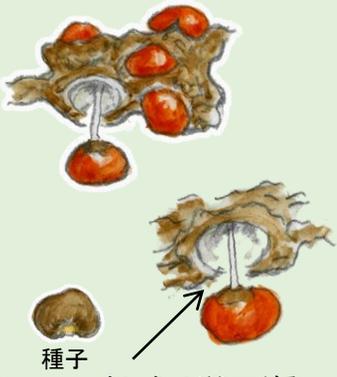
- ・動物に好まれるように、種子の周りを太らせて、甘みや栄養をたっぷり！
- ・鼻が利く動物に見つけてもらえるように、実から匂いを放つ！
- ・空を飛ぶ鳥に見つけてもらいやすいように、実を目立つ色にする！（黄、赤や黒紫～黒が多い）

さらに工夫！

うまく食べられたとしても、肝心の種子が粉々に壊されてしまったりは元も子もありません。そのため、サイズを小さくしたり、外側をツルツルにして飲み込まれやすくしたり、皮を厚くして噛み砕かれないようにするなど、植物たちは種子にもさまざまな工夫をしています。

コブシ

赤い実は脂肪分を含み、高カロリー



白い糸でぶら下がる

アケビ

アリの好きなゼリー質の付属物(エライオソーム)付きの種子



種子

(フンから出た後、さらにアリに運ばれる)

イラスト:小沢正幸さん

ボランティアさん大活躍！！

今回、タヌキのフンから種子を取り出す作業をしてくれたのは、野生動物救護ボランティアの小沢正幸さんと遠藤順一さん。丁寧に中身を洗い出す細かい作業、ありがとうございました。

小沢さんは実物の種子を集め、イラストやコメントをつけてまとめた自作の種子図鑑も作成しています。なんと6年以上の蓄積が！今回のかわせみ通信ではそのイラストの一部を使用させていただいています。



フンの中身を取り出している小沢さん



小沢さん手作りの種子図鑑

ツルウメドキ

赤と黄色で鳥を誘う



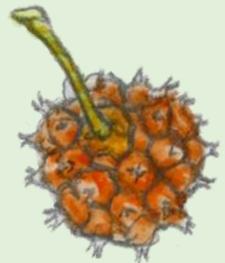
1個の実には3室に分かれる



種子

ヤマボウシ

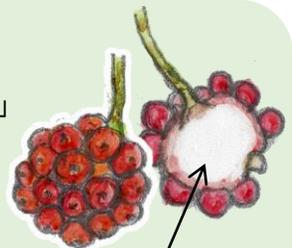
赤色で鳥を誘い、あま熟果はすぐ落下し、動物が食べ、運ばれる



種子

サネカズラ

和菓子の「鹿の子」を思わせる集合果 赤い玉が実



種子

(勾玉の形で光沢がある) 果床(スポンジ状)

自然観察カードでもっと知ろう！

植物が種子を運んでもらう手段は、他にも風や水によるものなど、さまざまな方法があります。

詳しくは展示室で配布している自然観察カード「木の实・草の实の作戦」をご覧ください。



野生動物と植物のかかわり

まんまと植物の策略にはまった動物は、植物の用意した魅力的な実を食べて、知らぬ間にせっせと種子を運んでいます。果たして植物側の思惑通りに遠い場所で発芽できるのでしょうか？

野外施設でタヌキの共同トイレ「ためフン」を見つけたので、そこからフンを採取して植木鉢に植えてみることにしました。名付けて「うんち鉢」。フンから発芽させることによって、野外施設にやってくるタヌキがどんなものを食べていたのか探ってみましょう。

タヌキの共同トイレ「ためフン」



ためフン(E13付近)
タヌキは複数で同じトイレを使います。排泄物を介して、食べ物や互いの健康状態などについての情報を交換していると考えられています。ためフンは1箇所ではなく、季節によって場所も変わります。

2月下旬



すでにフンから何かの種子が見えています



植木鉢に植えて「うんち鉢」完成！

4月上旬



春になると無事に芽が出てきました。
※一番大きな芽はツユクサですが、混入してしまったものと考えられます。

4月下旬



密集して芽が出ています。

9月上旬



密集したまま20cmほどに成長しました。

春になって出てきた芽は3種類ありました。調べてみるとエノキ、ムクノキ、イチヨウと分かりました。どれもタヌキにとって魅力的な実をつける樹木です。

エノキ

干し柿に似た味で甘い。果肉は少なく、種子は小さめ(5mm)なので、色々な鳥に運ばれる。



ムクノキ

干し柿に似た味で甘い。種子は大きめ(8mm)で、ムクドリが好むことが名まえの由来という説も。



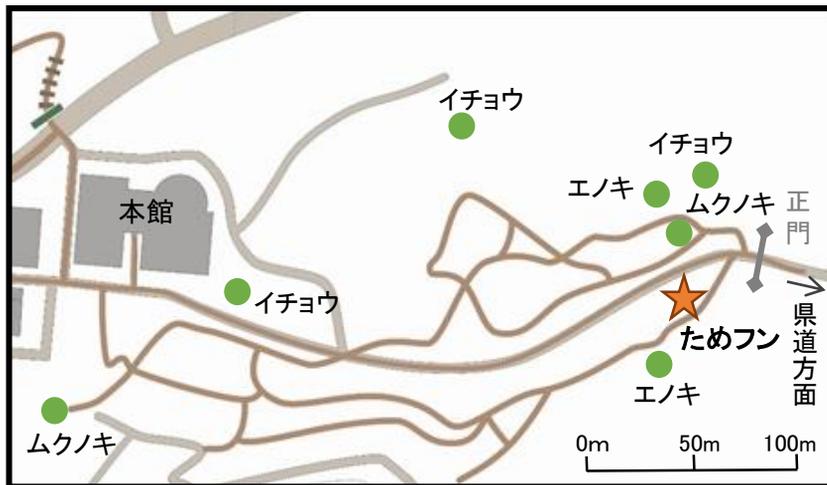
イチヨウ

くさい匂いでタヌキをおびき寄せる。種子はおなじみの銀杏(ギンナン)。



運ばれた種子

樹木観察園におけるためふんと3種類の樹木の位置



フンから芽が出た樹木は3種類とも、野外施設に生えています。実際にそれらが生えている場所を地図に書いてみました。

3種類の樹木は保全センター以外の場所にも生えているため、フンに含まれていた種子のすべてがこの場所で食べた実であるとは言いきれませんが、タヌキがフンとして排出することで種子が親の木から離れたところに運ばれていることがわかります。

動物のフンや植物の実を見つけたら、ぜひ、そこから生き物たちの関わり合いを感じてみてください。

傷病鳥獣救護 救護実績(令和4年7月～9月)

救護件数上位6種	
種名	件数
ツバメ	21
キジバト	13
スズメ	11
ヒヨドリ	4
タヌキ	4
ムクドリ	3

主な救護原因(人為的要因による)			
鳥類	件数	哺乳類	件数
ネコなどに襲われる	14	交通事故	2
誤認保護	5	疥癬症(かいせんしょう)	1
ガラス窓などへの衝突	4		
交通事故	4		
粘着剤に絡む	4		
防鳥ネット、マスクのひもに絡む	3		

※令和4年9月26日より傷病鳥獣の受け入れを休止しています。

野外施設トピックス (令和4年9月～10月)

日付	場所	できごと
9/26～ 10/22	施設全体	臨時閉鎖 一時的に受け入れた野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルス陽性が確認されたため、施設全体を臨時閉鎖しました。
10/22～	自然観察園	冬鳥がやってきました。 ジョウビタキ(初認日:10月22日)、アオジ(10月23日)

●ザリガニバスターズ結果報告

今年も大勢の方々にザリガニバスターズにご参加いただきました。のべ783人の参加で3152匹のアメリカザリガニを捕獲することができました。ご協力ありがとうございました。

お知らせ

令和4年9月に当センターにて傷病鳥獣として一時的に受け入れた野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルス陽性が確認されました。傷病鳥獣棟は消毒等の防疫措置を実施し、当面の間、傷病鳥獣の受け入れを休止しています。再開の際にはホームページ等で告知いたします。尚、本館及び野外施設については一般開放を再開しています。

皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。